

平成30年度 緑の回廊モニタリング調査(案)について

調査対象箇所:5年を目処にモニタリングすることを基本として、平成30年度は、平成24年度及び平成25年度に森林調査等を行った緑の回廊内の森林を調査対象とする。

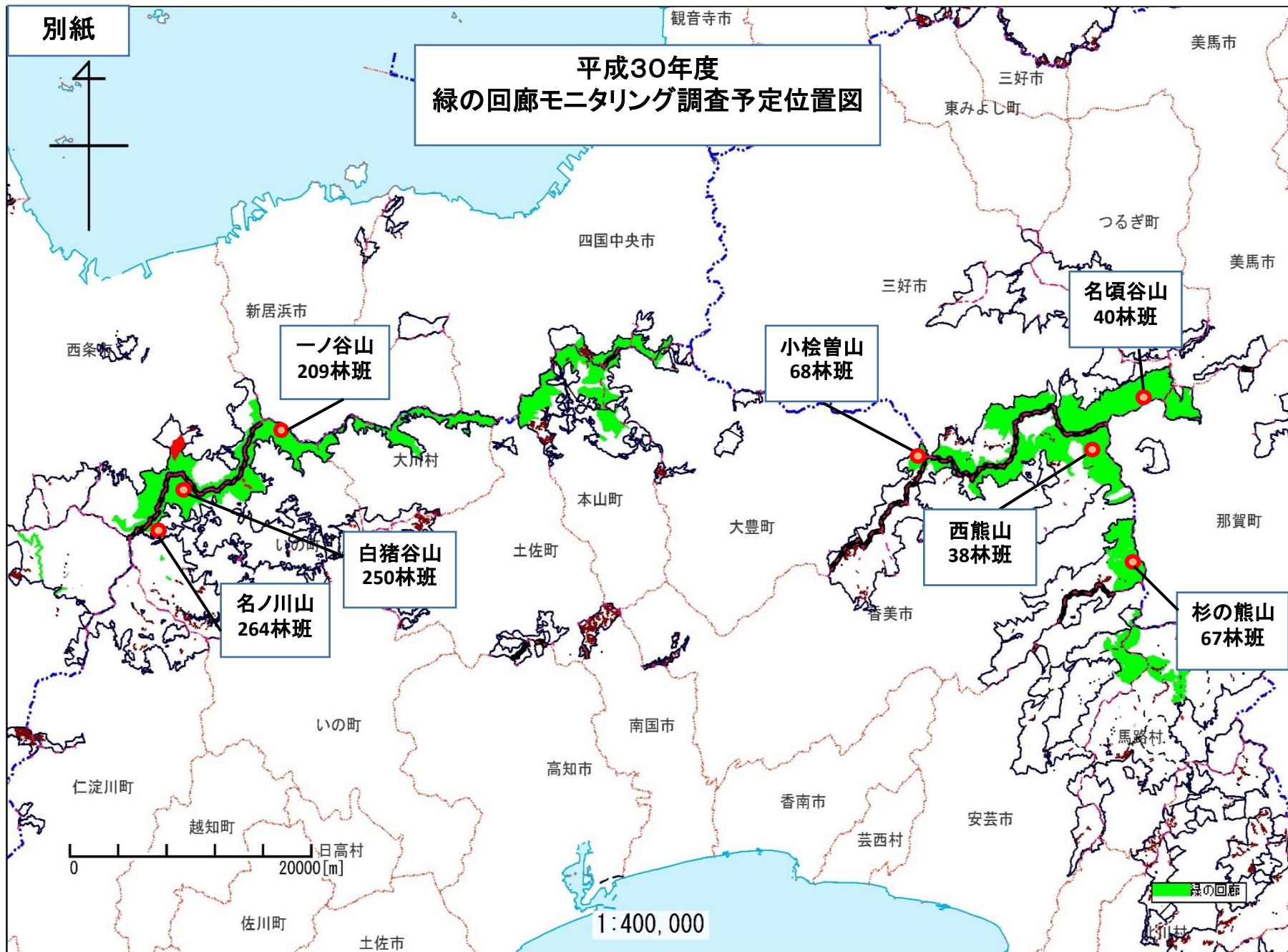
調査予定箇所:別紙のとおり。

調査項目:以下のとおり。

森林管理署名	国有林名・林班名	森林調査	自動撮影調査	巣箱かけ調査	フィールドサイン調査	鳥類生息調査	ツキノワグマ生息調査
徳島森林管理署	40林班	○	○	○	○		○
高知中部森林管理署	38林班	○	○	○	○		○
	67林班	○	○	○	○	○	○
嶺北森林管理署	68林班	○	○	○	○		○
	209林班	○	○	○	○	○	
	250林班	○	○	○	○	○	
	264林班	○	○	○	○	○	

別紙

平成30年度 緑の回廊モニタリング調査予定位置図



【調査内容】

① 森林調査

調査プロット(幅:10m、長さ:高木層の樹高の約2倍)7箇所において、林分構造及び生息環境の調査。

② 野生鳥獣の生息実態調査

調査プロット毎に自動撮影調査及び巣箱かけ調査を行うとともに、過年度に設定した調査地において、フィールドサイン調査、鳥類生息調査及びツキノワグマ生息調査を実施

調査項目		説明
森林調査	林分構造調査	林種、林分の発達段階、階層毎に優占度区分、種名、高木層の樹高・胸高直径等を調査。
	生息環境調査	林相、樹洞木、衰退木等の状況、攪乱の状況、地形条件等を調査
野生鳥獣の生息実態調査	自動撮影調査	センサーカメラを設置し、動物を自動的に撮影。
	巣箱かけ調査	巣箱を設置し、当該巣箱に向けてセンサーカメラを設置して箱を利用した種を記録。
	フィールドサイン調査	自動撮影調査の巡視及び確認作業時に、糞や足跡等の目撃、鳴き声等を確認。
	鳥類生息調査	ラインセンサス上に出現した鳥類を記録。
	ツキノワグマ生息調査	過年度調査地において、自動撮影調査を実施。